

令和5年度 食品検査状況

1 残留農薬



令和5年度は、野菜や果実、畜肉等の農畜産物100検体（国産品80、輸入品20）について延べ11,436項目の残留農薬検査を行いました。その結果、100検体中39検体（検出率39%）から延べ75農薬が検出されましたが、食品衛生法に定められている残留基準を超えたものはありませんでした。

残留農薬検査結果の概要

	国内産		輸入品		全体	
	検体数	検査項目数	検体数	検査項目数	検体数	検査項目数
野菜	30	4,342	10	1,754	40	6,096
果実	20	2,880	10	1,200	30	4,080
玄米	10	1,200	-	-	10	1,200
畜肉	20	60	-	-	20	60
合計	80	8,482	20	2,954	100	11,436
農薬検出数	27	57	12	18	39	75
検出率(%)	34%	1%	60%	1%	39%	1%
残留基準超過数	0	0	0	0	0	0

2 放射性物質



令和5年度は、流通品の一般食品、牛乳及び乳児用食品、飲用水の200検体、および野生の山菜ときこのこの67検体について放射性物質（放射性セシウム）の検査を行いました。その結果、流通品については200検体中4検体から放射性セシウムが検出されましたが、基準値を超えたものはありませんでした。また、野生山菜（4～6月実施）については58検体中6検体から、野生きのこ（8～10月実施）については9検体中6検体から放射性セシウムが検出されましたが、基準値を超えたものはありませんでした。

流通品の検査結果

	検体数	検出数	検出率	基準超過検体数	基準値(Bq/kg)
一般食品	182	3	2%	0	100
牛乳及び乳児用食品	9	1	11%	0	50
飲用水	9	0	0%	0	10
計	200	4	2.0%	0	-

野生山菜・きのこの検査結果

	検体数	検出数	検出率	基準超過検体数	基準値(Bq/kg)
山菜	58	6	10%	0	100
きのこ	9	6	67%	0	
計	67	12	18%	0	-

3 動物用医薬品



動物用医薬品の検査結果

令和5年度は、県内産鶏卵（9検体）、県内産さけ目（2検体）、輸入魚類（4検体）、輸入肉類（牛肉2検体、豚肉2検体、鶏肉2検体）について延べ926項目の動物用医薬品の検査を実施しました。その結果、食品衛生法に定められた基準値を超えたものはありませんでした。

	品名	検体数	検査項目数	検査結果
県内産	鶏卵	9	396	基準超過なし
	さけ目	2	90	
	さけ目	3	135	
輸入	すずき目	1	45	
	牛肉	2	86	
	豚肉	2	86	
	鶏肉	2	88	
	合計	21	926	

4 食品添加物

令和5年度は、保存料13検体、酸化防止剤9検体、着色料9検体、甘味料9検体について検査を行いました。その結果、使用基準に違反した食品はありませんでした。

食品添加物検査の概要

種類	検体数	検査項目	検査結果
保存料	13	安息香酸、ソルビン酸、 パラオキシ安息香酸エステル類	使用基準違反なし
酸化防止剤	9	tert-ブチルヒドロキノン	
着色料	9	食用赤色2,3,40,102,104,105,106号 黄色4,5号、緑色3号、青色1,2号	
甘味料	9	サイクラミン酸	
合計	40		



5 遺伝子組換え食品

令和5年度は、大豆粒（定量2検体、定性4検体）を対象に検査を行いました。その結果、安全性審査済み組換え大豆が検出された食品はなく、表示が適正に行われていることが確認されました。

遺伝子組換え食品（大豆粒）の検査結果

品名	検体数	検査項目	結果
大豆	2	安全性審査済の遺伝子組換え大豆の検査(定量) (RRS・LLS・RRS2遺伝子)	不検出
大豆	4	安全性審査済の遺伝子組換え大豆の検査(定性) (P35S・RRS2遺伝子)	不検出

6 アレルギー物質

令和5年度は、「そば」混入のおそれのある食品6検体および「小麦」混入のおそれのある食品4検体（いずれも県内製造）の計10検体について、抗原抗体反応を利用した定量検査法による試験を実施しました。その結果、そば、小麦とも陽性反応を示すものはなく、表示違反の食品はありませんでした。

アレルギー物質の検査結果（そば）

品名	検体数	そば陽性
中華めん	3	0
ゆでうどん	1	0
うどん生めん	2	0
計	6	0



アレルギー物質の検査結果（小麦）

品名	検体数	小麦陽性
米粉	1	0
菓子	3	0
計	4	0

